資料４－２

【令和２年度】

地方創生交付金事業の
効果検証

【地方創生拠点整備交付金活用事業】

１．豊かな農産物を核とした農業振興と魅力ある雇用創出プロジェクト

【地方創生推進交付金活用事業】

２．八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業

３．海外クルーズ船寄港を活かした観光・物産プロジェクト

地方創生事業　成果検証シート

1．事業概要（PLAN）

事業名	**豊かな農産物を核とした農業振興と魅力ある雇用創出プロジェクト【事業期間：H28～H29年度】**
総合戦略での位置付け	基本目標1：地域の礎となる地域産業が興隆し魅力ある雇用があるまち
	基本目標3：地域の宝を活かした町内外の交流が盛んなまち
事業の背景・目的	【背景】 ・氷川町農産加工研修センターは、氷川町の地域資源の有効利用及び付加価値を高めるための農産物の加工技術の開発・研修の拠点施設として、本町が平成11年に整備したものである。 ・地域住民の利用に加え、（有）氷川町まちづくり振興会が町の梨、いちご、晩白柚等を加工した特産品（吉野梨の万能たれ、梨ジュレ、フルーツパイ等）の製造を行っている。 ・平成27年12月に策定した「氷川町総合戦略」では、農業従事者の担い手対策はもとより、6次産業化や農業生産品の産地化、ブランド化、商品開発、販路拡大を推進し、多様な雇用形態と若者世代から高齢者、女性など様々な立場の方が経済活動へ参画できる環境づくりを進めることとしている。 ・人口ビジョン策定に当たって実施した地元高校生の卒業後の進路希望調査によると、「熊本県の他の市町村で就職・開業したい」が過半数以上を占めている。若い世代が地域に留まるためには、基幹産業である農業、商工業といった地域産業が強化され、6次産業化による新たな魅力ある雇用の場の創出が課題である。 ・そうした中、町のしごと創生の拠点施設である農産加工研修センターは、まちづくり振興会が取り組んでいる町の農産物を使った特産品の開発・販売は好調であるが、町民向けの施設利用とまちづくり振興会による特産品製造の共用施設のため、作業効率が悪い状態であり、また、大手スーパー等が求める衛生基準を満たすクリーンルーム等もないため、地元農産物を使用した特産品の増産、販路拡大に支障をきたしている。
	【目的】 ・農産物の加工技術開発・研修の拠点施設である氷川町農産加工研修センターを増築し、氷川町まちづくり振興会による地域の農産物を使った特産品開発・製造の取組を支援することによって、生産者の農業所得の向上、担い手の確保はもとより、新たな雇用の創出を目指す。 ・具体的には、町民向けの加工・研修施設とは別に、まちづくり振興会の研究・加工スペースを増設することで、施設の利用促進及び作業効率の向上を図り、施設利用料や加工品売上の増収を目指す。また、衛生基準を満たすクリーンルームを設置することで、大手スーパーとの取引の拡大（販路拡大）につなげ、加工品売上の拡大を目指す。
事業の概要	氷川町農産加工研修センターに、特産品開発・製造に特化した作業スペースを増築することにより、まちづくり振興会の新商品開発や販路拡大を支援し、しごと創生を図る。 ・既存作業スペースとは独立した特産品開発・製造用スペースを増築し、クリーンルームを備えた加工室と製品の在庫置場とする資材倉庫を整備する。 ・農産物の加工設備として、特産品の開発・製造に必要な「攪拌機」や「電解水生成装置」、食材・原材料を保存するための「プレハブ冷凍庫・冷蔵庫」などのほか、各種調理器具・器材を整備する。
交付金を充当する経費内容（令和2年度計画）	平成29年度で施設整備完了

2. 実施状況(DO)

令和2年度実績額	0　(円)
事業実績	平成29年度で施設整備完了 ・新商品として「晩白柚もなか」の開発が進み、令和2年度から販売を開始している。 ・晩白柚果汁の自社搾汁が可能になり、取引き可能な資源が増加した。 ・「晩白柚もなか」や「晩白柚ジュレ」の令和2年度の新規の取引先として、スポット販売を含め、以下のとおり取引を開始した。 ①(株)極楽湯…晩白柚ジュレ(極)(1月・2月) ※ 千葉県柏店ほか3店舗 ②成田酒販(株)…業務用晩白柚ジュレ(2月) ※ 愛知県 グランコート名古屋 ③熊本ネクストソサエティ(株)…晩白柚もなか(2月・3月) ※ 兵庫県 大丸神戸店ほか 全国6百貨店で販売。

3. 評価(CHECK)

	重要業績評価指標(KPI)		事業開始前	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(事業終了時)
本事業における重要業績評価指標	雇用創出数	目標値		12人	26人	41人	56人
		実績値	3人	7人	18人	26人	45人
	加工品の売上額(氷川町まちづくり振興会による売上額)	目標値		12,510千円	20,590千円	29,620千円	39,000千円
		実績値	11,210千円	8,243千円	9,587千円	9,521千円	8,828千円
	ひかわツーリズムクラブによるツーリズム事業への参加人数	目標値		1,990人	2,090人	2,210人	2,350人
		実績値	1,930人	1,834人	2,497人	2,122人	488人
成果・課題	【成果】 ・操業開始から2年8ヵ月を経過し、ハサップによる管理などソフト面において、習熟度が増し、製造の質量ともに安定した。 ・新商品の「晩白柚もなか」や「吉野梨ドレッシング」や「晩白柚果汁」など一次加工品の製造も自社製造が可能になり、稼働率が向上した。 ・「晩白柚」や「いちご」などの一次加工品の加工量も増え、取引可能な資源が増加した。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大、併せて令和2年7月豪雨による影響で、取引先の多くが、休業や事業の縮小を余儀なくされ、取引きに大きく影響し、売上が減少した。 【課題】 ・新商品の開発や取引可能な資源が増加したが、安定した取引先が確保できていない。 今後は、販路拡大が大きな課題である。						

4. 今後の方向性(ACTION)

今後の取組方針	・新規の取引先の開拓を含め安定した取引先の確保するため、積極的な営業を推進するとともに、「プロフェッショナル人材事業」を活用し、効果的な営業活動により、販路拡大につなげる。 ・併せて、HPや各種ECサイトの利用を積極的に進め、ネット販売(通販)を拡充し、売上げ向上につなげる。

地方創生事業　成果検証シート

1．事業概要（PLAN）

事業名	八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業【事業期間：H28～R2年度】
総合戦略での位置付け	基本目標1：地域の礎となる地域産業が興隆し魅力ある雇用があるまち 基本目標3：地域の宝を活かした町内外の交流が盛んなまち
事業の背景・目的	【背景】 ・八代市・氷川町・芦北町は、隣接していることから通勤・通学面でも結びつきが強い地域であり、定住自立圏形成協定を締結し、圏域全体での定住促進に向けて連携・協力を進めているところである。 ・八代市では全国と比して15歳前後の人口流入が多く、周辺市町村からの進学先としての受け皿となっている一方、18歳～20歳前後での転出が非常に多く、氷川町、芦北町においても若年者の流出は非常に多い。 ・3市町とも若年者の流出は多いが、卒業後の進路に関するアンケートでは、5～6割の学生が各市町内への定住を希望している。また、氷川町及び芦北町においては、求職者の5割以上は町内に希望する職種がないと回答している。 ・雇用の面では、企業側からは、若年者の雇用環境が年々厳しさを増すことへの不安感が広がっており、将来的な経営の持続性が危ぶまれている状況にある。一方、教育機関からは、市内企業の情報が学生に伝わらないとの声も聞かれており、企業からの求人が出されているにも関わらず、若年者にとっては「地元に就職先がない」との印象を与える結果になってしまっている。 ・八代圏域でも多くの企業がインターンシップの受入を行っているが、学生にとっては単に就業体験を行う場所、企業にとっては地域貢献のための取組となっており、両者にとってメリットが非常に少ない実情となっている。
	【目的】 ・実践的なインターンシップの取組を通じて学生と企業との接点を作り、企業の魅力を直接的に学生へ伝える手段・場所をつくることで学生が域内企業を知る機会を創出する。 ・企業経営者の経営課題解決にインターンシップを活用し、域内企業の抱える人材不足や経営的な課題の解消を図る。 ・3市町のうち大多数の企業が立地する八代市が主となってインターンの仕組みを構築し、若年者雇用のダムとなり、、八代圏域内外の学生の域内定着を図るとともに、3市町が連携し、圏域にて移住定住のための側面支援を実施していくことで、地域の仕事に希望を持ち、圏域で生活していきたいという若者を増やすことを目指す。
事業の概要 （H28～R2年度）	※八代市及び芦北町連携事業として実施 ○企業と若者との交流拠点整備 ・インターンシップ（複数企業訪問型、長期型など）を通じた企業と学生との交流を促進 ・学生と企業による新技術・新製品開発等に対するコーディネート（県内大学・高専等との連携） ・UIJターン者の地元就職のための相談窓口を設け、域内企業とのマッチングを支援（地元商工会議所・商工会等との連携） ・交流拠点を活用した地域内雇用及び創業の促進にかかる支援 ○インターンシップの取組を通じて活性化する企業活動・若者の集積を産業振興や定住促進へ繋げるための側面支援事業 ・3市町合同就職フェア ・移住定住促進事業 （首都圏等で開催される移住定住フェア等への参加、域内の魅力を情報発信等）

交付金を充当する経費内容（R2年度計画）	【氷川町実施分】 ①ツナガルインターンシップ事業負担金　　22,482千円（うち氷川町1,349千円） 八代圏域雇用促進センターへの委託事業として実施。 インターンシップを起点とした企業と若者とのコネクション強化。 UIJターン者の地元就職のための相談窓口による域内企業とのマッチング支援と併せ、熊本県UIJターン就職支援センターとの圏内企業情報発信を含めた連携。 当該拠点を活用した地域内雇用及び創業の促進にかかる支援。

2. 実施状況（DO）

令和2年度実績額	1,349,000 （うち交付金674,000）　（円）
事業実績	ツナガルインターンシップ事業 ○八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業を一般社団法人八代圏域雇用促進センターへ委託事業として実施。 ○八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業負担金1,349,000円 ○八代圏域雇用促進センターへの会員加入は、氷川町から15社。（前年同比） ○八代圏域雇用促進センターにおける令和2年度に実施した主な事業は、 ・圏域内高校向けインターンシップ事業に279名が6社にて実施（コロナの影響によりオンライン） ・圏域内中高校生向け職業講話として683名の参加（コロナの影響によりオンラインにて実施） ・県外大学生向けインターンシップ座談会として参加者126名（コロナの影響によりオンライン実施） ・企業向けセミナーの開催　参加33名（コロナの影響によりオンライン実施） ・八代圏域企業面談会　19社参加（コロナの影響によりオンライン実施） ※氷川町からの高校生等の参加者数は把握できないので不明 ・企業紹介冊子「フレシー」を5,000部作成し、町内中学校、商工会等に配布。

3. 評価（CHECK）

	重要業績評価指標（KPI）		事業開始前	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度（事業終了時）
本事業における重要業績評価指標	高校・高専・短大卒業者等の八代圏域内企業への就職者数	目標値		141人	144人	162人	196人	245人
		実績値	141人	140人	143人	158人	143	149
	18歳～22歳の若年者の八代圏域への定着率	目標値		91%	91%	92%	91%	91%
		実績値	91%	89%	96%	85%	85	86
	本事業によるインターンシップ参加学生数	目標値		0人	53人	164人	308人	485人
		実績値	0人	0人	43人	205人	637	279

成果・課題	【成果】 ・令和2年度においては全体で67社の新規参加（会員）であったが、氷川町からは新型コロナウイル ス感染症の影響により新たな参加（新規会員）企業はなかった。 ・これまで事業所に出向きインターンシップを実施していたが、オンラインを活用することにより学校 でインターンシップの取り組みや企業紹介を実施した。 ・県外の学生との意見交換会などにも参加できた。 【課題】 ・新型コロナウイルス感染症の影響から各企業へ出向いての長期インターンシップができない状況にある。 ・オンラインの活用も行われているが、通信環境や企業の詳細まで紹介ができにくい部分もある。

4. 今後の方向性（ACTION）

今後の取組方針	・新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも事業を展開する必要があるため、オンラインシステム を活用することにより状況にあわせた対策を講じ、圏域内高校、県外の大学及び専門学校等へ企業 紹介を行っていく。 ・参加企業の拡大を図るとともに、企業へのDXを推進し、その支援も八代圏域雇用促進センターにて 継続して実施する。

地方創生事業　成果検証シート

1．事業概要（PLAN）

事業名	**海外クルーズ船寄港を活かした観光・物産プロジェクト【事業期間：H28～R2年度】**
総合戦略での位置付け	基本目標1：地域の礎となる地域産業が興隆し魅力ある雇用があるまち 基本目標3：地域の宝を活かした町内外の交流が盛んなまち
事業の背景・目的	【背景】 ・日本版DMOに登録された「DMOやつしろ」は平成28年4月に設立され、観光地経営を推進する上で必要な経営ノウハウを持つ人材を継続的に確保することや、自立化に向けマーケティング等を兼ねて行う人材の育成・確保が課題である。 ・また、海外クルーズ船は八代港に寄港するものの、乗船客のツアーバスは免税店を中心としたツアー行程となっていることから、乗船客を観光地に誘導したり、体験観光させることが難しく、寄港効果の取り込みができていないことが課題となっている。 ・海外クルーズ船客等を対象としたアンケートを踏まえ、体験型観光や歴史文化及び地域の食などの地域資源を磨き上げ、体験・体感してもらうための仕組みづくりが必要である。 ・多くの体育施設を有する八代市では、各種スポーツ大会や国内外からの合宿利用客が増加傾向にあり、観光振興事業とあわせて取り組みを推進し、交流人口の拡大を図っているところである。 ・熊本地震に伴う風評被害等により宿泊者数が激減しており、観光産業に影響が出ている。
	【目的】 ・海外クルーズ船等で訪れる国内外からの観光客をターゲットとして、八代固有の歴史・文化を活かして、「DMOやつしろ」を核とする官民協働による観光地づくりを進め、交流人口の拡大と経済効果発現を目指す。 ・加えて、日本一の生産量を誇るトマトや晩白柚、い草等の農産物等の地域特産品のプロモーション等に取り組み、消費拡大・流通促進を図り、観光産業及び食関連産業における雇用の創出と活性化を目指す。
事業の概要 （H28～R2年度）	※八代市及び芦北町連携事業として実施 【事業内容】（H28～R2年度） ①DMOやつしろ機能強化事業 　DMOやつしろを担う専門的人材や後継人材の育成、マーケティング等の基礎調査の実施、観光ガイドやツアー造成の一役を担うランドオペレーター（旅行中の案内や交通手段の手配を行う者）等の養成を行う。 ②大型クルーズ船等インバウンド事業 　八代城跡周辺や日奈久温泉を中心に、八代ならではの和のまち並み空間整備を行うとともに、食と農、文化、スポーツ等の様々な分野と連携した体験型観光開発や観光客の周遊性を高めるための多言語による情報発信等を行う。また、クルーズ船社等へのツアーの提案やツアーに参加しない乗客・クルーを対象に中心市街地等との交通アクセスの強化を行い、イベントへの参加や買物・食事等による消費拡大を図る。 ③八代市・氷川町・芦北町ブランド事業（シトラスブランディング事業） 　3市町は、柑橘系の栽培が共通し盛んであることから、柑橘系という括りで圏域一体となってプロモーションを行っていくことで他地域との差別化を図り、認知度を高め、本地域固有の「歴史」・「文化」・「自然」・「食」を連携させ、滞在交流型の観光圏を目指す。農林水産省が推進する「食と農の景勝地」の認定を目指しながら、戦略計画の策定や体験観光の開発を行う。 ④フードバレー流通推進事業 　国内の大都市圏や海外での販路開拓と輸出増大のため、物産展や展示会、商談会等への出展、国内外の消費者に八代産農林水産物の安全性とおいしさをアピールする事業者への支援を行う。また、八代港と姉妹港である基隆市をはじめとする台湾各地において、県南地域特産品・観光展でのトップセールスを実施し、知名度向上を図り観光客の誘致につなげる。

交付金を充当する経費内容（R2年度計画）	【氷川町実施分】 ○八代市・氷川町・芦北町ブランド事業 【事業費：5,883千円（負担金）※うち氷川町852千円】 戦略プランに基づくPR事業を実施するとともに、道の駅を活用した体験プログラムや通年イベントを開催。また、外国人観光客への誘客を目指し大型クルーズ船バスツアー営業、香港における晩白柚の定着と観光誘客を図る。 ①シトラス観光圏推進事業【実施主体：シトラス観光圏推進協議会】 ・海外等への映像発信（SNS、海外CM（TV、BS等） ・戦略計画に基づく事業の実施 ②イオンフードアルチザン活動【実施主体：八代市・氷川町】 ・イオン香港での観光フード展

2. 実施状況（DO）

令和2年度実績額	852,019 （円） （うち交付金426,009）
事業実績	①シトラス観光圏推進事業　　（町負担金：384,519円） （1）国内観光客向けプロモーション活動事業 ・シトラス消毒液の開発　500,550円 コロナ禍の中で、今後の商談会等でのフックとなるような商品開発を実施。晩白柚のアロマオイルを用いたシトラススプレーの試作品を製作した。 ・晩白柚レプリカ制作　531,190円 世界ギネス記録の晩白柚のレプリカを製作した。 （2）インバウンド向けプロモーション活動事業 ・リモートTRAVELツアー　378,050円 参加者には、3市町の特産品を事前に送付し、ツアー当日はオンラインで八代市・氷川町・芦北町と肥薩おれんじ鉄道及びシトラス観光圏の紹介を実施した。 ・情報発信事業　275,000円 台湾・香港向けのサイト（ラーチーゴー）に、八代市・氷川町・芦北町と肥薩おれんじ鉄道の観光情報を掲載した。 （3）圏域事業所向け事業…令和2年7月豪雨の影響で中止 （4）WEBを用いた情報発信 ・シトラス観光圏ホームページ制作　453,255円 （5）3市町啓発イベント ・シトラス「スウィーツ×ララランチ」スタンプラリー事業　734,799円 地元フリーペーパーとの合同企画。圏域内の柑橘類を使用したランチやスイーツ提供店を巡るスタンプラリーを実施。 （6）クリアファイル作成　385,880円 次年度以降のプロモーション活動に使用するクリアファイルを製作。 ②イオンフードアルチザン活動（467,500円） イオングループでは、全国各地で郷土の味を守り続ける生産者とともに、優れた食文化継承を担う目的で「フードアルチザン」活動を進めている。熊本県やつしろ晩白柚ブランド推進協議会では、八代産晩白柚のブランド化を通じた生産振興・販売・地域振興を目的にイオン香港（全12店舗）で販売フェアを開催した。 ・晩白柚積込及び八代港への出発（令和3年1月6日） 新型コロナウイルス感染症の影響により晩白柚出発式が中止となった。出発式の代替として、香港向け晩白柚のトラックへの積込作業、トラックが八代港へ出発する模様を報道機関に公開した。 ・晩白柚プロモーション イオン香港晩白柚フェアの事前告知として、現地の有力ブローカーに晩白柚を知ってもらい、フェア告知を実施。イオン香港のフェイスブックや各種Webサイトでもフェアを告知した。また、香港での販売促進を図るため、現地販売員への事前勉強会の開催を実施するとともに、晩白柚購入者に対して、パンフレット（多言語版）・ノベルティを配布した。 ・イオン香港晩白柚フェア（令和3年1月28日～2月11日） イオンストアーズ香港（全12店舗）で開催。L玉2,100玉、3L玉32個を販売。最終販売数はL玉1,717個、3L玉10個。

3. 評価（CHECK）

本事業における重要業績評価指標	重要業績評価指標（KPI）		事業開始前	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度（事業終了時）
	観光客入込客数（人）	目標値		838,400	1,173,760	1,184,240	1,194,720	1,205,200
		実績値	1,048,000	949,483	921,369	891,842	852,065	651,534
	外国人観光客数（人）	目標値		9	117	277	486	685
		実績値	11	1	286	83	113	45
	観光消費額（千円）	目標値		2,154,223	3,015,912	3,042,840	3,069,768	3,096,696
		実績値	2,692,779	2,483,280	2,403,035	2,333,377	2,235,833	1,718,572
成果・課題	【成果】 ①シトラス観光圏推進事業 （1）国内観光客向けプロモーション活動事業 ・シトラス消毒液の開発 コロナ禍の中で、今後の商談会等でのフックとなるような商品を開発するため、当初はシトラス消毒液を作成予定であったが、薬事法の関係で、晩白柚のアロマオイルを用いたシトラススプレーに変更となり、試作品として130本を製作した。関係者に配布、アンケートを実施し、その結果を今後の商品開発に活用予定。 ・晩白柚レプリカ制作 世界ギネス記録の晩白柚のレプリカを製作し、各市町にて展示したり、今後の商談会等で活用予定。 （2）インバウンド向けプロモーション活動事業 ・リモートTRAVELツアー 令和3年2月7日（日）10:00～11:30で催行し、参加者は25組（応募総数は52組）。 参加者には、3市町の特産品を事前に送付し、当日はZoomを用いてオンラインによるモニターツアーを実施。3市町と肥薩おれんじ鉄道及びシトラス観光圏のPR活動を行った。 ・情報発信事業 台湾・香港向けのサイト（ラーチーゴー）に、八代市・氷川町・芦北町と肥薩おれんじ鉄道の観光情報を掲載し、PR活動を実施した。 （3）圏域事業所向け事業…令和2年7月豪雨の影響で中止 （4）WEBを用いた情報発信 ・シトラス観光圏ホームページ制作 既存のホームページの更新が不可能となったため、全面リニューアルを実施。今後は、情報掲載が各担当で実施することが可能となったため、利活用の促進につなげる。 （5）3市町啓発イベント ・シトラス「スウィーツ×ララランチ」スタンプラリー事業 地元フリーペーパーとの合同企画。圏域内の柑橘類を使用したランチやスイーツ提供店を巡るスタンプラリーを令和3年1月から2ヶ月間実施した。コロナ禍の中、応募者は昨年よりも大幅に増加し、42名。うち22名に、各市町の限定品や特産品を贈呈した。 （6）クリアファイル作成 次年度以降のプロモーション活動に使用するクリアファイルを製作し、今後の商談会等で活用予 ②イオンフードアルチザン活動 令和3年1月28日から2月11日にかけて、イオン香港晩白柚フェアを実施し、晩白柚のPR及び販売を行った。また、イオングループでの国内における晩白柚の販売促進活動に伴い、国内市場での認知度も向上し、市場評価も高まりつつある。							

	【課題】 ①シトラス観光圏推進事業 ・新型コロナウイルスの影響の上に、豪雨被害が重なったため、当初の事業計画を遂行することが困難となり、年度途中で事業変更を余儀なくされた。国内、海外問わず、3市町の認知度は依然として低い上に、3市町内でのシトラス観光圏の認知度も低いままである。認知度アップに向け、今後も継続的に事業に取り組んでいく必要がある。 ・コロナ禍の中で、観光業界への影響は大きく、圏域内の観光客も激減している状況であり、国外だけでなく、国内の観光客に対するPR活動も効果的に実施していく必要がある。 ②イオンフードアルチザン活動 晩白柚の香港輸出において、春節の時期が一定でないため、輸出に係る数量・価格・スケジュール等の調整が必要になる。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、産地からの渡航が難しくなり、産地と消費地の関わりが薄れることが懸念される。

4. 今後の方向性（ACTION）

今後の取組方針	①シトラス観光圏推進事業 新型コロナウィルス感染症の状況を考慮し、県内在住者向けのPRの強化と、コロナワクチンの普及に伴い、県外や海外からの観光客の誘致につなげるため、オンラインツアーの開催など、新たな手法によるPRも実施し、事業展開を図っていく。 ②イオンフードアルチザン活動 春節の時期により、輸出に係る数量・価格・スケジュール等が変動することになるが、熊本県やつしろブランド推進協議会を構成する各団体や関係機関と連携を取り合い、香港及び国内市場双方の認知向上に取り組み、さらなる晩白柚の生産振興と地域振興を図っていく。